

『流山の史跡をあるく』の著者の新刊です！

自動配本はございません。1冊からお気軽にご注文ください！

# 「佐和山落城記」を読む

## 石田三成の重臣・山田家に残された古文書の謎

千葉県流山市に遺された古文書から、

田村哲三[著]

### 関ヶ原の敗者の末裔が記した歴史を読み解く

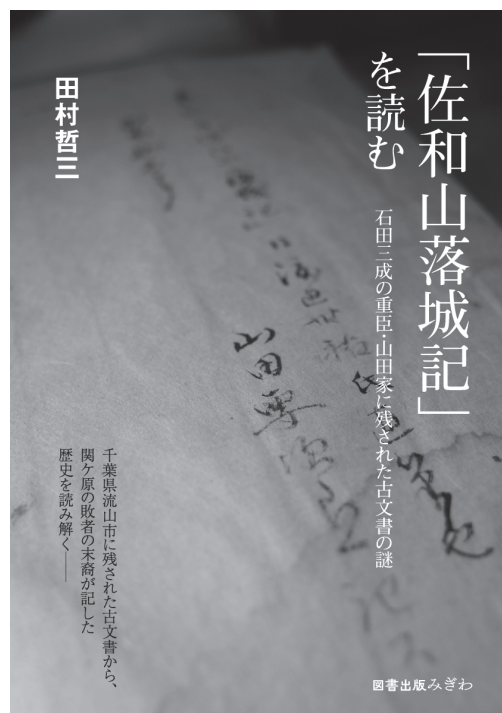
慶長5年(1600)、「天下分け目」となった関ヶ原の戦いで徳川家康に破れた石田三成。勝利した東軍は、佐和山城を落城し、その後、城主・石田三成は斬首された。

「佐和山落城記」は、石田三成の重臣であり忠臣であった山田上野之助の子孫が書き残した、佐和山の落城を描いた古文書である。ここには、落城に至る経緯から、山田上野之助の息子がどのように佐和山城から逃れたのかまで、詳しく描かれている。昭和10年(1935)、千葉県流山市東深井の古い蔵の中から発見され、当時の新聞でも大きく取り上げられる。その後、東京大学史料編纂所で調査研究もなされた。

勝者である徳川が残した、栄華を誇示する歴史ではなく、表舞台から姿を消した敗者による貴重な文書の現代語訳と影印を掲載。資料発見に至る経緯などを仔細にまとめた解説も付す。

田村哲三(たむら・てつぞう)

1938年、茨城県つくば市生まれ。NPO 流山史跡ガイドの会理事長、郷土史研究家、著述家。主な著作に、『近代出版文化を切り開いた出版王国の光と影—博文館興亡六十年』(法学書院)、『利根運河を完成させた男—二代目社長・志摩万次郎伝』(峯書房出版)、『カナル—Tone Canal 利根運河』、『流山の史跡をあるく』などがある。



定価: 本体 2,000円+税

A5判・並製・144頁・2025年11月刊行

日販・トーハン楽天BN など、すべての取次番線で注文いただけます。  
ご返本も承ります。

FAX: 047-413-0625

貴店名    ご担当	注文数    冊	「佐和山落城記」を読む 石田三成の重臣・山田家に残された古文書の謎   本体 2,000円(+税) A5判・並製・144頁・ISBN978-4-911029-25-1 C0021
------------------------	----------------------	--